

早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書 (Web 公開用)

申請者 (ふりがな)	前田 千晴 (まえだ ちはる)
所属・資格 (※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載)	早稲田大学大学院 人間科学研究科 修士課程 2 年
発表年月 または事業開催年月	2024 年 11 月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	日本学校メンタルヘルス学会第 28 回大会
発表者 (※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること)	前田千晴, 佐々木三紗, 竹田好香, 高橋恵理子, 桂川泰典
発表題目 (※学会発表の場合のみ記載)	ADHD に対するスティグマの文献レビュー
発表の概要と成果 (抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。)	
<p>①スティグマとは、特定の人々に対する否定的な理解や認知のことであり、Goffman (1963) により「人の信頼/面目を失わせる望ましくない種類の属性」として定義されている。スティグマは個人や社会に対して様々な悪影響を及ぼすことが知られており、特に障がい者に対するスティグマは、彼らの社会参加に対する障壁になるとされている (米倉・山口, 2016)。</p> <p>注意欠如多動症 (attention deficit hyperactivity disorder: 以下, ADHD) は、不注意, 多動性, 衝動性などの特性をもつ神経発達症の 1 つである。ADHD 者はその特性から、社会的状況において望ましいとされる行動を認識しつつも遂行することが難しく、日常生活場面や対人関係において、失敗や衝突を経験することが多い (Shaw, 2021)。その結果、ADHD 者も周囲に誤った認識等を引き起こし、スティグマの対象となる可能性がある。しかし、本邦における ADHD に対するスティグマに関する先行研究は少なく、構成概念やその影響の整理は行われていない。そこで本研究では、本邦における ADHD に対するスティグマに関する研究を概観するとともに、今後の課題について考察することを目的に研究を行った。その結果、文献検索においては条件に合致する文献が抽出されず、予備的検討としてナラティブレビューを行った。</p> <p>学会では本研究の成果について報告し、今後の研究の改善点などについて様々な専門家とディスカッションを行い、今後の研究活動における参考となった。</p> <p>抄録公開 URL : <a href="https://www.edupsych.jp/wp-content/uploads/2024/09/5aaa37d54c1b710eca8a7c728cce0111.pdf">https://www.edupsych.jp/wp-content/uploads/2024/09/5aaa37d54c1b710eca8a7c728cce0111.pdf</a></p>	

※無断転載禁止